全小行研会報

題字・田甫勝次氏筆

発行所
全国小学校
学校行事研究会
会長　鈴木　恒雄
事務局
東京都大田区立
北糀谷小学校内
〒144-0032
東京都大田区北糀谷2-2-5
TEL 03-3742-5371
FAX 03-3742-5372

学校行事の目標を見据えて

全国小学校学校行事研究会会長
東京都武蔵野市立第五小学校長
鈴木　恒雄

コロナ禍が私たちを翻弄して、間もなく三年が経過します。学校の教育活動が一変し、学校行事は、大きな影響を受けました。一年目の令和二年度は、様々な学校行事が中止・縮小を余儀なくされ、見通しの立たない不安が先立つ一年でした。二年目の昨年度は、当たり前に行われてきた学校行事が以前と同様にできなくなったことで、その価値を見直す一年となったのではないでしょうか。そして、今年度は、多くの小学校が、厳しい状況の中でも、それぞれの学校行事の目標を見据えて再開する方向へと進まれてきたのではないかと思います。

私が勤務する武蔵野市では、全ての小学校が、長期宿泊体験「セカンドスクール」を本来予定の泊数（五泊六日）で実施したほか、各校が運動会、学芸会、展覧会などの様々な学校行事を工夫して行いました。本校でも、学校行事だからこそできる仲間体験・本物体験・感動体験を通じて、子どもたちは友達と喜びを分かち合い、確かな成長を遂げていました。

今年度、本会は、全国大会は開催しませんでしたが、都小行研との共催で八月に夏季研修会を行いました。オンラインも含めて全国から約九十名の方の参加があり大変充実した研修会となりました。そして、本会報には、今回、十一の都府県の研究会等から活動報告が寄せられました。いずれもこの苦境にめげず、学校行事の改善・充実に取り組まれる熱意が伝わってくるものでした。研修会に参加された皆様、講師の先生方、活動報告をお寄せくださった皆様に心から感謝申し上げます。

さて、来年度は、名古屋大会以来四年ぶりの、参集による全国大会となる九州・熊本大会が八月三日・四日に予定されています。全国の皆様の力を合わせ、この大会を実りあるものにしてまいりましょう。

第五十七回 小学校学校行事研究全国大会　九州・熊本大会に向けた思い

大会実行委員長
熊本市立大江小学校長
松永　裕子

二〇一六年四月に発生した熊本地震から六年の時間が経ちました。初めて経験する揺れに驚きました。熊本城や阿蘇大橋の崩落などの被害の大きさを目のあたりにして愕然となりました。でも、そこから声をかけ合い、助け合いながら、復旧・復興に向けて必死に前を向いてがんばりました。そんな折、たくさんの方からの応援は大きな支えとなりました。学校行事研究会の方々からのメッセージもその一つでした。先に進む力と勇気を後押ししていただきました。そのお礼を直に伝えたいと、会に参加したのが本研究会とつながるきっかけでした。それまでも活動自体は知っていたものの、熊本には学校行事研究会の組織がなかったこともあり、少し遠い存在でもありました。熊本地震を機に本研究会と関わっていく中で、「九州で全国大会を開きたい」という声をいただくようになりました。九州での開催の前例はなく、そう簡単に引き受けられません。当時の熊本県の平野会長や九州理事会で相談し、それならば…と後押ししていただき、その結果今年八月に、熊本で全国大会を開催することに決定しました。まさかの展開に驚きながらも、熊本に行きたい！というリクエストに応えます。「熊本城に行きたい」「温泉に入りたい」「馬刺しを食べたい」そんな皆様の願いを叶えます。私も含め、熊本のメンバーは全国大会の運営は初めてです。背伸びすることなく、できる形でやっていきたいと考えています。「できたしこ！（できた分だけ）」で、お許しください。ということで、皆様にお願いしたいのは、熊本にたくさん来ていただきたいということです。コロナ禍において先延ばしになりながらも、せっかく開催にこぎつけたのに、参加者が少ないと寂しいです。この夏は、暑い火の国熊本で、学校行事への熱い思いを語り合い、これから先のことを考えていきましょう。

初日は、國學院大學杉田洋教授のご講演、翌日は全国・九州の発表をもとに分科会を開催いたします。金曜日の午前に閉会しますので、午後からは熊本を満喫してください。心からお待ちしております。

第五十七回 小学校学校行事研究全国大会　九州・熊本大会

令和五年八月三日(木) 午後～
くまもと森都心プラザ
令和五年八月四日(金) 午前
熊本市国際交流会館ほか

【研究主題】
「多様な他者と協働してよりよい生活をつくろうとする学校行事の創造～つけたい資質・能力の焦点化と取組の工夫～」

徳島県小学校教育研究会特別活動部会の取組

徳島県小学校教育研究会
特別活動部会会長
石井町立高川原小学校長
吉本　憲司

徳島県小学校教育研究会特別活動部会では、「自主的、実践的な活動を通して、互いのよさを生かし、よりよい生活や人間関係を築こうとする態度を育てる特別活動」を主題にして全県的に特別活動の研究に取り組んでいます。

徳島県小学校特別活動研究大会は二年に一度、夏季研究協議会は毎年行っています。本年度は、研究大会の裏年に当たり、夏季研究会のみの開催となりました。いずれも分科会の一つに「クラブ活動・学校行事」があり、提案発表・研究協議を行っています。

本県では、学校行事を充実させるために、「学校行事の意義の理解→目標や計画についての話合い→活動目標や活動内容の決定→体験的な活動の実践→振り返り」の活動過程を大切にしています。そのための教師の適切な指導のあり方や評価の観点を研究しています。また、地域や自然との関わり、多様な文化や人とのふれあいなどの直接体験を充実するための工夫についても特に重点的に研究しています。

夏季研究協議会では、阿南市椿泊小学校 村上悦久先生より地域の偉人の「森甚五兵衛墓」の清掃活動について、児童が目標や計画を話し合い、町内会とともに清掃をしたという実践報告がありました。誇りある地域の一員だという自覚を高めた学校行事になりました。

香川県小学校教育研究会特別活動部会の取組

香小研特別活動部会　会長
丸亀市立城乾小学校　校長
大塚　浩二

香川県では、小学校教育研究会特別活動部会が学校行事のあり方について、研究の中心になって活動しています。

今年度は、研究テーマを、「将来に夢をもち、社会で生きる力を育てる特別活動のあり方 ～文化を創造し、集団をつくる深い学び～」として研究を重ねてきました。

研究の視点として、①話し合う力の育成と身に付けさせたい見方・考え方（言語活動の充実）②学級活動（3）「一人一人のキャリア形成と自己実現」の授業のあり方③安全教育等の様々な教育活動と特別活動との効果的な関連のあり方④「特別の教科 道徳」や体験活動との効果的な関連のあり方⑤社会で生きる力としての資質・能力を育む評価のあり方の5点に重点をおき実践を行いました。

令和4年度は、コロナ禍により参集による研修は実施できませんでしたが、夏季研修会は2回の事前研修会で深められた内容が冊子で、また、3年に一度の香小研大会では丸亀市立飯野小学校・垂水小学校の実践が紙上発表されました。これらをもとに県下各校において検証し、それぞれの取組に反映しています。

今後も、他県の取組なども参考にさせていただきながら、香川県における学校行事の充実を目指していきたいと考えています。

熊本県特別活動研究会の取組

熊本県小学校特別活動研究会　会長
熊本市立大江小学校長
松永　裕子

今年度の熊本県特別活動研究会では、研究テーマを、「よりよい集団や社会の形成に向けた生きて働く力を育てる特別活動の創造」として取組を進めてきました。

八月には、県大会をオンライン配信により開催しました。担当の八代支部の取組紹介の後、國學院大學の杉田洋教授から「これからの特別活動」という演題でご講演をいただき、大変学びのある時間を過ごすことができました。

また、今年度も月に一回をめどに学習会を行っています。コロナ禍においてなかなか参集しての開催は難しいのですが、オンラインゆえに参加しやすいという声も聞かれています。画面越しにおいても、参加者同士の情報交換の場になっており、やってみよう…という意識も高まっています。十月には玉川大学の川本和孝准教授にも参加していただき、あらためて特別活動の素敵なところを再確認する機会となりました。

令和五年を迎えたところで、八月に開催します「第五十七回 全国学校小学校学校行事研究大会 九州・熊本大会」に向けて、ギアを入れていきたいと考えています。学校行事研究会という組織のないところでの開催となりますが、〝九州はひとつ〟という合言葉で結びついた九州地区の応援を受けながら、準備を進めてまいります。八月三日～四日、熊本でお待ちしています。ご参加ください。

事務局からのお知らせ

○第五十七回全国大会について

令和五年八月三、四日に開催予定の全国大会九州・熊本大会の申し込み方法など、詳しいことは、順次、ホームページ等に掲載いたしますのでご確認ください。

○「理事報告書」の提出について

年度末・年度初めにご提出いただいております「理事報告書」は、組織を運営するために重要な報告書となっております。ご退職や異動がある場合は、必ず引き継ぎをして、ご提出してください。

本研究会は、今後も全国の都道府県をつなぐ唯一の組織としての役割を果たしていきたいと思います。引き続き、よろしくお願い申し上げます。

全国小学校学校行事研究会
ホームページアドレス
https://zensyo-gyou.com/

全国大会の情報や「理事報告書」の
フォーマットも掲載しております

〈問い合わせ〉事務局
144-0032 大田区北糀谷 2-2-5
大田区立北糀谷小学校
電 話：03-3742-5371
メール　kitakoujiya-es1@ota-school.ed.jp

東京都小学校学校行事研究会の取組

東京都小学校学校行事研究会事務局長
大田区立北糀谷小学校長
細　井　鏡　子

東京都小学校行事研究会では、研究テーマを「よりよい社会を自ら築く力を育てる学校行事の創造～『仲間』『本物』『感動』そして『共生』～」として研究を推進しています。東京都を東西南北の四地区に分け、各地区での研究発表会、会報の発行、研究集録の作成等の取組をしております。今年度は、八月四日に、全国小学校学校行事研究会と連携し、武蔵野市立第五小学校にて、次のような内容で「夏季一日研修会」を開催しました。

一、講演Ⅰ「世界から見た学校行事の可能性」
講師　元全小行研会長　エジプト日本学校スーパーバイザー
鈴木　純一郎　先生

二、発表　大田区立北糀谷小学校「みんなの学校　みんなで楽しく大作戦～百四十五周年行事の取組～」

三、発表　武蔵野市立第五小学校「コロナ禍だからこそ子供が輝く運動会に」

四、演習「学校行事の計画を立てよう」
講師　元都小行研会長
加藤　純　先生

五、講演Ⅱ「みんなが幸せになれる！学校行事の裏技」
講師　前全小行研会長　八王子学園なかよし幼稚園長
清水　弘美　先生

全国の皆様と積極的に関わることで、学校生活の節目、節目に子供たちの目標となっている学校行事の重要性を再確認し、各校での実践に向けた意欲を高めることができました。

資質・能力を見直し再構築へ向けて

横浜市小学校学校行事研究会長
横浜市立茅ケ崎小学校長
高　橋　美　都　子

昨年度は、全国大会神奈川・横浜大会にたくさんのご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございました。大会は滞りなく終わり、オンラインというかたちではありましたが、大勢の方に参加いただけたこと嬉しく、またコロナ禍の中での学校行事の大切さや子どもたちの成長に大きく寄与するものであることを再確認することができました。

今年度は、例年の活動に戻り、アフターコロナの学校行事の実践を視野に入れながら活動を進めてきました。研究主題を「主体的に学びを進め、自己実現や社会参画につながる学校行事の創造」、副主題を「自己有用感を高める体験活動とその学びの過程」と設定し、多くの学校で行った自校の子どもに必要な資質・能力を見直しながらの活動の再構築について研究を深めることができました。また、十一月には　現エジプト日本学校SV 鈴木純一郎先生（元全小行会長）に「世界の学校行事～エジプトでの日本式学校行事」という演題でご講演いただきました。時差七時間という中ではありましたが、快く講演をお引き受けくださった鈴木先生は感謝いたします。参加者は、大統領が率先して進めている日本式教育の導入の術や現地教員の実践などを伺い、改めて学校行事の大切さや重要性を確認することができました。

全国青少年体験活動推進フォーラム～誰一人取り残さない体験活動の取組～

新潟県小学校学校行事研究会事務局
小　林　朋　広

新潟県小学校行事研究会では、国立妙高青少年自然で開催した全国青少年体験活動推進フォーラムを研修会に位置づけ、全国の会員にも参加を呼びかけ、百七名の皆様に参加していただきました。

フォーラム前半の鼎談では、「困難な課題を抱えた青少年の体験活動の推進」をテーマに、千葉敬愛短期大学学長の明石要一様、筑波大学教授の坂本昭裕様、新潟青陵大学准教授の中野充様、上越市立高田西小学校介護員で元独立行政法人国立青少年教育振興機構理事の伊野亘様から、個別最適な遊び、五感やウェルビーイングを重視した体験活動の推進、困難な課題をもつ子供に対する体験提供の留意点等について御示唆をいただき、改めて体験活動の意義を認識できました。

後半は、「発達障害や不登校等の課題を抱える青少年の体験活動」「経済的に困難な状況にある体験活動」「特別支援学校における青少年の体験」の三分科会に分かれて、実践発表と話し合いを行いました。課題を抱える青少年にとって「感動体験」は心の支えになり、安心した環境やプログラム構成の工夫、スタッフとの信頼関係づくりが重要なこと、特別支援学校では継続した取組の中で学年の児童生徒の実態に合わせた成功体験の積み重ねが大切であること、児童養護施設等福祉事業で体験活動提供のための工夫をすること等の意見が出され、参加者の全ての青少年への体験活動推進意欲が高まりました。

広島市小学校教育研究会学校行事部会の取組

広島市小学校教育研究会学校行事部会長
広島市立舟入小学校　校長
青　木　誠

本部会では、「生きる力を育む学校行事の創造と展開　～達成感・連帯感・所属感を深める体験活動～」を研究主題とし、達成感・連帯感・所属感を生み出すような学校行事の実践を目指して研究を行っています。特に、研究を深めるキーワードとして、「本物」・「特色（伝統・地域）」・「自主」・「仲間（異年齢も含む）」の四つを掲げ、児童の感動体験が実現できるように工夫した行事の取組を行っています。

研究の内容としては、年に3回の集合研修を計画し、学校行事についての理論研修や自校の学校行事の実践交流、中学校・高校の部活動の訪問研修などを行っています。昨年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、ほとんど集合研修ができませんでしたが、今年度は、感染症対策を施しながら予定した研究を進めることができました。特に、部活動の訪問研修では、中・高校生の行事に対する主体的な取組に触れることで、児童が主体的に考え未来を切り拓く活動の在り方を考えることができました。

2年後は、広島市小学校教育研究会の組織再編により、特別活動の中で研究を進めていくことになっていますが、これからも、生きる力を育む学校行事の実践を目指していきたいと思います。

兵庫県小学校教育研究会特別活動部会の取組

兵庫県小学校教育研究会特別活動部会部会長
兵庫県姫路市立峰相小学校長
船　曳　則　成

兵庫県小学校教育研究会特別活動部会では、兵庫県の小学校特別活動の向上と振興に寄与することを目的に活動しています。

今年度より県内を八地区から七地区に改編し、今後の事務局及び研究大会のローテーションを決め、見通しを持って研究に取り組める体制を構築しました。昨年度一昨年度はコロナ禍で研究大会等も紙上発表等になりましたが、今年度は参集しての研究会を実施できました。

八月八日に加西市において「第四七回兵庫県小学校特別活動研究大会」を開催しました。参集しての県大会実施は令和元年以来のことでした。大会主題を「集団活動を通して、豊かな人間関係を形成する特別活動～学び合い、つながり合う児童の育成」とし、学校行事（未来へつなぐ心の支え～学校行事から感じるつながりのあたたかさ～）を含む、四つの実践報告、さらに國學院大學人間開発学部初等教育学科教授（前文部科学省初等中等教育局視学官）杉田洋先生の「子供たちの幸せな未来を拓く特別活動」の記念講演をいただきました。

その他、各地区毎の研修会も実施しております。コロナ禍での学校行事の在り方の研修とともに、教職員の学びの在り方も検討しています。

神戸市小学校学校行事研究会の取組

神戸市小学校学校行事研究会副代表
神戸市立多井畑小学校　校長
木　原　誠

神戸市の小学校では研究テーマを「多様な人々と協力し、集団や社会に参画する力を育む学校行事の創造　～人とのつながり～」として、コロナ禍における学校行事の在り方に工夫を重ねてきました。

学校行事が子供たちの力となり、学校教育のすばらしさを再確認する場面となるように願いを込めて各校で具体化してまいりました。中でも室内で行われる音楽会においては細心の注意を払いながらも表現活動の重要性の観点で大切に位置づけ、多くの学校が以下のような形式で実施しました。

○歌唱やリコーダーなど、飛沫感染の恐れのある活動は休止（令和4年度は少しずる緩和）
○打楽器を中心に楽器を配当
○保護者の入場数の制限から、学級・学年・低学年と高学年などの分割形式で行う

など、今までの慣習にとらわれず、表現活動や児童の自主的活動を大切にした学校行事の運営となりました。

マスクをつけながらも児童が音楽会を進行したり、代表挨拶や準備・片付けを行ったりと、児童の活動に少しずつ輝きが増してきているように感じます。まだまだ歌唱についての制限や参観する保護者の数の制限など、手放しでは喜べないことが多いですが、わずかに光が見えてきた今年度の足跡となりました。

奈良県小学校特別活動研究会の取組

奈良県小学校特別活動研究会会長
奈良県五條市立五條小学校長
延　原　喜　久　子

奈良県小学校特別活動研究会では、研究主題を「集団活動を通して、一人一人が輝く特別活動の創造　～よりよい人間関係や社会を築く子どもの育成～」とし、研修を推進して参りました。とりわけ三年ぶりに参集型で開催することができた第六十回となる県大会においては、県内各小学校からの豊かな実践を共有し、研修を深めることができました。

また、十一月に行われた近畿小学校学校行事研究大会滋賀県大会では、「健康安全・体育的行事」の分科会において「一人一人が主体的に取り組む学校行事～自分事として臨む避難訓練の在り方～」と題して、本県小学校の避難訓練の実践を報告させていただきました。地域の実態や児童の課題を踏まえた避難訓練の在り方や、進んで安全な行動をとることができる能力や態度の育成に重点を置いた実践を報告するとともに、各府県の先生方との協議を深める中で、今後の取組に大いに参考となる示唆をいただくことができました。

今後も真摯に実践を積み重ね、県内の特別活動のより一層の充実に向けて取り組むとともに、全国の豊かな実践に学び、研究を推進してまいりたいと思います。

京都府小学校教育研究会特別活動部の取組

京都府小学校教育研究会特別活動部部長
京丹後市立かぶと山小学校長
山　副　雅　彦

京都府小学校教育研究会特別活動部では、研究主題を「希望や夢をもち、多様な人々と協働して、よりよく生きる力を育む特別活動」として、令和二年度より三年間、京都府内の各支部小学校での実践を紹介し、交流し合うことを通して研究推進を行ってまいりました。

ある支部においては、支部内小学校に「学校行事に関するアンケート調査」を行い、学校行事の意義や効果を再確認されていました。また、実践を通して、コロナ禍であっても事前指導、本番、事後指導までを計画的に取り組み、他学年への発表の場をもつなどの工夫を行うことで、児童の一体感や達成感、満足感が高まることを紹介していただきました。

また、ある支部の小学校では、小規模校の強みを生かし、地域の人材や特産品、他教科とも関連付けながら、勤労・生産・奉仕的行事として「起業体験活動」を実践されました。その取組を通して、リーダーシップや多様な他者と協働して取り組む力の育成、さらには郷土愛も育まれていることを実感できたことが紹介されました。

このように、実践されてきた学校行事を交流し合うことで、各校の学校行事の意義やねらいを再確認し、集団への所属感や連帯感を深める内容づくりの参考となる研究を推進することができました。